

ボランティア通信 2018.10 Vol.222



なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会
(交野市ボランティアセンター内)
V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp
Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

第27回健康福祉フェスティバル ～11月11日(日)開催～

模擬店・教室	午前 9:00～12:30	午後 12:00～15:30
水餃子・おにぎり	10人	10人
バザー(古本市併設)	10人	10人
植木市	15人	15人
福祉体験(疑似体験)	15人	15人

※午前・午後通しの終日お手伝い大歓迎
 ※水餃子・おにぎりブースのお手伝いを希望される方は、三角巾、マスク、手拭いをご持参ください。
 ※申込みはボランティアセンターへ、10月15日(月)締切りです。

昨年の健康福祉フェスティバルの様様



植木市のブース



水餃子・おにぎりのブース



福祉体験(疑似体験)

ボランティアを
紹介してほしい人
ボランティア活動を
はじめたい人
ボランティアセンター
にお問い合わせください
(☎894-3737)

フェスティバル出店ブース ボランティア募集!

今年の健康福祉フェスティバルに、ボランティア連絡会として、屋外に水餃子・おにぎり、バザー(古本市併設)、植木市の3つのブースと、館内3階に福祉体験(高齢者疑似体験)教室を開きます。これらのブース・教室のお手伝いを募集していますが人数が不足しています。ボランティアの皆さんのご協力をお願いします。

ボランティア インタビュー67 内野谷ふみ子さん(かざぐるま)



ボランティア活動を始めたきっかけは

広報「かたの」に高齢者ボランティアスクール講座の掲載があり、受講したのがきっかけです。初級・中級・上級コースがあり、今は亡き吉田芳子先生にボランティアの精神を厳しく教わりましたのが、懐かしく思い出されます。

古都の神社・仏閣めぐり
 当時、夫の両親が広島で地域の方々に支えていただきましたが、暮らしていましたので、少しでもこちらでお手伝いできたらとの思いで活動を始めました。

散策の季節になりますと、古都の神社・仏閣を巡るのが楽しみです。大好きな広隆寺には何

度も訪ね、弥勒菩薩さまの前では飽きることなく、いつまでも見つめています。仏像と向き合うと心が落ち着きます。

庭造りも愉しんでいます

家では、ガーデニング、花やラティスで庭づくりを愉しんでいます。今は一部が畑に変わっていています。今年は記録づくしの猛暑と豪雨が全国的に広がっていましたが、幸いにもわが家では夏野菜が立派に育ち、新鮮な野菜をいただいて、厳しいこの夏を乗りこえることができました。家族にも喜ばれています。

人のつながりを大切に

一時期、体調を崩してボランティア活動を休んでおりましたが、グループのみなさんから「戻っておいで」と、優しく声をかけていただき、復帰の一步を踏み出すことができました。

これからは無理をせず、相手の立場に立つてできることをしたいと思っています。なかまとの繋がりに感謝しています。

リーダー会議(9月25日)

☆連絡会より

- 健康福祉フェスティバル 9月18日、第2回実行委員会を開催し、模擬店の担当毎に備品の確認、当日のボランティア把握などの準備を進めました。その他は1頁参照
- 府V連河北ブロック交流会 9月25日、本日開催の河北ブロック交流会の事前打合せと準備について、リーダー会終了後会場設営などサブリーダーの協力を得て、準備をしました。交流会の内容容は2頁参照
- 各グループの展示パネルについて ☆Vセンターから
- 9月4日(火)台風21号で、VセンターJR側の窓のすべてが雨漏りし、備品や機材の設置箇所配慮してください。
- 消火器の設置箇所について、消防署の指導を受けて一部変更しています。
- 来月のリーダー会終了後、高齢者疑似体験を実施します。
- 認知症について学ぶ(2頁参照)
- ☆各グループから(省略)

編集 後記

ボランティアって

ボランティアを始め
 て何年もたったが、改めて「ボランティア」という言葉の意味を調べてみた。

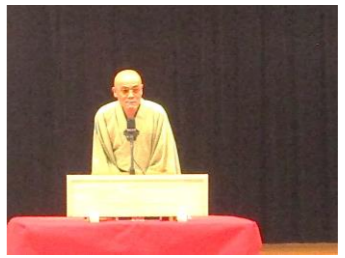
「ボランティア活動は、恵まれている者から恵まれない者へ、健康者から障がい者へ、裕福な者から貧困な者へということではなく、自立した市民による相互の活動であり、市民同士がお互い対等につながる活動である。お互いが平等な立場で協力し合える関係が大切である。

企業における上下関係や年齢、性別を超えてかわりを持つ関係が存在し、肩書がないことなどから自由で平等な関係が構築できる。他から強制されたり、義務としてするのはなく、個人の自由意思で行なう活動である」と。

改めて自分を振り返り楽しく無理なく、活動続けましょうね。
 (リリー)

出会いは心の光 障害者理解を進めるために

9月25日(火)、ことし当番市にあたる交野市ボランティアアグリグループ連絡会は、河北ブロック交流会を交野市保健福祉総合センターで開催しました。開催にあたって社会福祉協議会の協力を得て、第一部を全盲の落語家桂福点さんの講演とし、広く市民にも参加を呼びかけました。第二部は河北ブロック7市のボランティア連絡会の皆さんとグループ討論を行い、各市ボランティア連絡会との交流を深めました。



全盲の落語家桂福点さん

桂福点さんの講演

福点さんは、子供のころに緑内障になり、何度かの手術を受けたものの右目を失明。左の眼も0.04という弱視で小学校は遅れて入学したため友達もできず、いじめにもあい9歳で大阪の盲学校に入った。そこで、自分よりもっと大変な障がいのある人がいることを知る。人は自分と違う障害のある人のことが理解しにくいものだという事に気づき、ここでの先生や友だち

との出会いで、誰でも生きていくだけでもすごいこと、これを、世間の人に理解してもらわねばと思うようになり、紆余曲折の上、落語家の道に入られました。

大阪芸大出身という肩書を持たれていて、テノールの美しい歌声や、リコーダーの演奏をきかせてくださって、驚きました。障がいを明るく話されて、健常者も



大勢の人が集った4F交流ホール

障がいの者も何も変わりない、一緒に仲間なんだと思える社会にならねばと思うとともに、福点さんの益々のご活躍を祈ります。

第二部 活動事例紹介とグループ討論

第二部では、グループ討論に先立ち交野市ボランティアグループ「糸ぐるま」のユニークな取り組みを、活動事例として他市の皆さんに紹介しました。

グループ討論は6つのグループに分かれて、①桂福点さんの講演を受けて、これからの障がい者支援を考えよう ②ボランティア連絡会の未来・夢を語ろうという二つのテーマを中心に話し合いました。

10月のボランティアサロン

“お互いさん”の交野のまちづくり講座

認知症について学ぼう

ボランティアについて、知る、学ぶ、交流する会を開いています。今月は、趣向を代えまして、認知症について広く学ぶ機会としました。認知症サポーターの養成も兼ねた講座です。気軽にご参加ください。



認知症の方を見守る仲間になろう!

日時 10月11日(木) 午後1時30分~3時30分
 場所 ゆうゆうセンター(天野が原町5-5-1) 4階 多目的ホール
 定員 100名
 内容 基礎講座や役割演技(ロールプレイ)を通して、認知症について正しく理解を深め、認知症の方やその家族を暖かく見守る認知症サポーターを養成します。
 申込み 交野市社会福祉協議会へ10月4日(木)までに
 ご連絡先ください。 TEL 072-895-1185 FAX 072-895-1192

手話「さつき」

「手話落語」で交流

手話「さつき」では、会員の学習のため、年に一度講演会を開催しています。今年は9月7日(金)午前の例会で、「手話落語」を鑑賞しました。話し手は、落語家の「宇宙亭のん気」さん(枚方市在住のろう者)。

まずは小咄を2話。もちろん音声なしの手話表現だけの語りですが、豊かな表情と表現力に惹きこまれ、笑笑 笑笑

その後は、落語を始めたきっかけなどのお話も伺いました。手話表現は手の動きだけでなく



宇宙亭のん気さんの手話落語に笑の渦

く表情も大事です。というところで、お題をいただき、会員が創作小咄に挑戦。あつという間に予定の時間が終了してしまいました。

終了後は昼食も一緒に、交流を深めることができました。

台風21号の爪痕

9月4日、大阪湾を直撃した台風21号は、1961年9月の第2室戸台風とよく似たコースを通り、各地に大きな被害をもたらした。南港では6メートルを超える海水に覆われた。

交野市では強風による被害がかなりみられた。

わが家でも倒木、門扉が外れて道路に散乱した。近くでもガレージや物置の屋根が一部損壊したり、瓦の飛散、街路樹の倒木などが散見された。今回は被害を受けられた家庭がかなりの数に上っているかも知れない。自然災害を前にして、人間の小ささを痛感したものである。(T)

お彼岸は「おはぎ／ぼた餅」?

いろんな謂れがあるようです。古来「赤色」には魔除けの力があるといわれており、小豆は祝の席や儀式の際に赤飯や砂糖に混ぜてあんこにして捧げられてきた習慣から、お彼岸ではお餅には「五穀豊穡」を、小豆には「魔除け」の意味を込めて「ぼた餅やおはぎ」にして、ご先祖への感謝と家族の健康を願って墓前や仏壇にお供えするようになったとか。

春のお彼岸は、春に咲く花「牡丹」をイメージしてぼた餅、秋は萩の花が小豆に似ているから「おはぎ」になったという。他にこし餡を「ぼた餅」、粒餡を「おはぎ」と呼ぶ風習もあるようです。(M記)

「障がいの者に寄り添う」

人権研修で桂福点さんの「出会いは心の光 障がいの者理解をすすめるために」を聴き、とても感銘を受けました。障がいの者の方たちどのように接すればいいのか迷っていましたが、まず関心を持たねばならないこと、そして4つの壁(①自分の障がいを理解する②人との出会い③自分を活かせる場所がある④障がいではなくその人を理解する)のお話しは、障害を持たない者にとって気づきにくいものでした。障がいの者理解することの困難さを実感しましたが、障がいの者に寄り添うことが大切だということ、何か道が開けたような気がしました。創作落語のメールのお咄もとても楽しく、有意義なひとときに感謝。(S)

夫との会話 カチンときちやいました

「電車が近づいています。白線までお下がりください」「次は、交野市駅です。左側のドアが開きます」駅や電車の中では様々なアナウンスがあります。先日、ヨーロッパ旅行から帰ってきた夫が言った。「あちらの駅や電車はほとんど何も言わなくて静かだいいわ。なんで、日本の駅や電車はあんなにやかましくいろいろ言うんや」、私はチョットひっか

かった。「あんたは目は見える、耳も聞こえる足も丈夫。世の中そんな人ばかりではない。目の見えない人が電車に乗ってアナウンスがなかったら降りるところも分からないでしょう」と。人によって必要な情報は違います。要らない情報だからと目くじら立てていることはないでしょうか。(K子)

